



「JEFNEWS 94号」の発行にあたり、このたび編集長の稲石副会長より原稿を依頼されましたが、私が本連盟と出会ってから今日までのことや今後について述べさせていただこうと思います。

私が、本連盟に所属することになったのは、今から7年前になります。最初は、高橋理事長の下、何もわからないまま連盟会議会場の提供と事務的なお手伝いをさせていただいておりました。実際に私自身が、全日本教職員バドミントン選手権大会と接点を持つようになったのは、私が教員になったばかりの第20回福島県郡山市の大会です。当時は選手として参加し、その後第28回香川県坂出市で行われた大会にも参加したこともありました。

その後年月が流れ、昨年の「第50回の記念大会」で役員として参加することになり、私の役員としての初仕事になりました。

当初、この大会は山形県山形市で行われる予定でしたが、東日本大震災により急遽、愛媛県松山市に変更になりました。大会に選手として参加したのは、過去数回しかなかったのですが、この全日本教職員バドミントン大会の役員として参加できるとはまったく予想していなかったことです。

「第50回の記念大会」で役員として参加したのと同時に「JEF創立50周年の集い」では、式典の企画運営に携わりました。「JEFNEWS 92号」（JEF創立50周年記念号）の発行に際しては、多くの歴史をもつ方々や親子で大会に参加された方々からその時代を象徴するような素晴らしい原稿をお寄せいただき、この編集のお手伝いをさせていただいたことが私にとってこの上ない喜びです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

そして、今年度長野県長野市において第51回大会が行われ、長野オリンピック会場だったホワイトリンク会場、長野運動公園総合運動場体育館を会場に熱戦が繰り広げられました。今年度はオリンピックイヤーで、7月27日～8月12日まで大会と重なることもあり、選手の中には寝不足ながら大会に参加された方もいたことと思います。その中でバドミントンにとって大きなニュースがありました。藤井・垣岩組の銀メダルは日本人初のメダルとなり、ますますバドミントンが多くの人たちに知られるようになりました。（私事ですが、銀座のパレードの人混みの中の一人として感動しながら間近にメダリストを観て参りました。）

また、「50回の記念大会」と併せて第1回全日本教育系学生バドミントン選手権大会も平井理事を中心に学生運営のもと、無事に開催することができました。現在は12月に開催される第2回目の大会を向かえようとしているところです。この大会も多くの参加者を募り盛大に実施していきたいものです。さらに参加する学生の多くが教職につき、教職員連盟の大会に参加してくれることを期待しています。

さて、日本教職員バドミントン連盟は50年の節目を終え、新たに100年に向けて歩みを進めています。今後も、皆様のご支援・ご協力を賜り、連盟のさらなる発展に微力ながら尽力できるように精進していきたいと思っております。

表紙の人	個人戦	団体戦	成績表	総合順位	平成二十四年度表彰者一覧	レフェリー報告	今大会を顧みて	第五十一回大会資料	平成二十四年度登録一覧	平成二十四年度予算	平成二十三年度決算	平成二十四年度行事計画	平成二十三年度事業報告	総会議事録	平成二十四年度 総会資料	目次	巻頭言
派遣審判員一覧／閑話休題	トーナメント表	トーナメント表															